

足裏が床に届かず 壇上を影に覆い隠され 座れば居ないもののようにされる

私

隣人は知らないだろう

起立の合図に揃えるために 私は空気椅子で閉式を待っていた

満開の桜を見上げることもしせず

小高いコンクリ塀に肩を預け、鼻筋の脂汗を人差し指ですくうと

こめかみを生垣の小さな葉につつかれ、撫でられ、招かれるまま

私は野ざらしの茶色いベンチに沈んでいった

息苦しいジャケットの、腕より長い袖を枕にして

砂利に真新しいパンプスの底をすべらせ

ジャングルジムの牢獄に母趾球の腫れを見せつけられ

踵の表皮が 赤黒く、湿る中敷へ 生ハムの薄さにおろされた

浜辺の桜貝を集めるように 風に散る花卉たちを目で追いかけてゆく

あれは嘘

卒業後の私はこの拘束着を毎日着ているか

嘘でなければ 私はいつまで他人事のフリを続けるのか